実践報告

森林業を輝かす

鳥取県立智頭農林高等学校　小林　徹

はじめに

本校がある鳥取県智頭町は千代川と沖の山山系など，多様な動植物を育む豊かな自然に囲まれている。智頭町は沖の山スギの赤ざし技術により発展した全国的に有名な林業地で，町を代表する産業となっている。しかし，近年県産材の需要低迷の長期化により，林業従業者数の低下と高齢化が進んでいる。その中にあって町内の林業関係者を中心として，魅力ある地域づくりと林地の荒廃防止を目的として，森林の多面的な機能を活用しようとする気運が高まっている。本校も「森にようこそ」と森林を舞台とした林業体験，自然体験，動植物観察の活動により，森林の素晴らしさとその保全の必要性を生徒と共に考え，また小学生をはじめ一般の方にイベントの形で紹介し，森林業を輝かせたいと考えている。

森にようこそ

（1）「学校林を共存の森に」

およそ28haある学校林を，多くの人が森に親しみ，林業を体験することのできる場所とするため，平成14年９月に観察小屋ツリーハウスを自作し，（写真１）そこを拠点として野生動物の生態調査を行っている。その中で，本県の絶滅危惧種に指定されているヤマネを目撃し，撮影に成功した。これは，本県では1999年以降３例目で，智頭町内では初記録である。さらに２年後に別個体の生息も確認され，（写真２）町内での繁殖が確認された。この記録は地元新聞にも取り上げられ，身近な活動の場である里山においても，希少動物の生息の有無を視野に入れた野山の乱開発防止と，豊かな森作りが必要であることを地元の町民に喚起できた。このように生物多様性の面から見た豊かな森の価値を体感するために野生動物の生態解明を追求しているが，目にすることの難しい動物を観察するために生徒は自動撮影装置を自作したり，ツリーハウスに寝泊りするなど，週１回学校林に入り活動している。

写真１　学校林に自作した樹上型観察小屋ツリーハウス

写真2　繁殖が確認されたヤマネ（丸くなって休眠中）

（2）「ツリーイングで木と友達」

「ツリーイング」というロープを使って木に登る新しい木登りの方法により，森林を立体的に捉え，季節によってさまざまな顔を見せてくれる木に触れ登って，いつもと違う視点から森を眺める自然体験活動を導入している。そのことで，林業に対する「危険」「きつい」といったマイナスのイメージを見直し，「木と遊びつつ森を育てる」という気持ちで木に接して，森林業の本来の魅力を発見していくことを試みている。

ツリーイング技術を習得するために，ツリー・マスター・クライミング・アカデミーという団体が行うツリーイング・ジュニア・クライマー資格認定講座を受けた。講座の中ではロープワークや樹木にダメージを与えないロープの設置方法を学んだり，15m以上の大木に登るビッグツリーチャレンジなどが行われた。生徒は励まし合いながら勇気を持って

写真3　ツリーイング講習会で

写真４　樹木を前に親子に葉の特徴や名前を説明していく

習得していった。（写真３）樹木を木材生産物として捉える以上に，木と遊び，木のぬくもりを感じることができるだけでなく，樹木に生きる昆虫や梢に吹く風，葉面にふりそそぐ陽光を知り，樹上での大きな興奮を生徒は感じていた。ツリーイング技術は，命の大切さを感じることができ，さらには林業の吊る伐り技術や枝打ち作業へと活用できる可能性を含んでいる。今後授業の一つに組み込みながら生徒に習熟させていきたい。

（３）「森にようこそ」

生態調査やツリーイング技術習得で得た知識や感動，野外活動のすばらしさを多くの人に知ってもらいたいと思い，平成11年度から交流している町内の土師小学校の生徒たちや一般市民に向けてイベントの形で，林業体験や自然体験学習を勧めてきた。林業体験では，小学生と枝打ちや伐倒そして皮むきをやって一緒に林業の大変さを経験した。

①ツリーイング体験イベント

異世代の方たちへ幅広く森林に親しんでいただくため，本校生徒は平成19年度３回のツリーイング体験イベントに参加した。イベント開催に向け，インストラクターとして参加者の補助を行うときの心得について指導を受けたり，会場となる施設である「鳥取砂丘こどもの国」のマスコットキャラクターの着ぐるみによるPR，当日参加申し込みを宣伝するための看板も作成した。各イベントには親子20名程度が参加してくださり，皆さんが初めての体験を親子で楽しみ，自然に戯れ，森に親しむ方法を知っていただいた。何より，生徒自身が，多くの方々の協力によりツリーイングの魅力を満喫し，木に親しむ機会を持てたのは，大きな喜びであった。

②「子ども樹木博士」

小学生との交流で継続して行っている「こども樹木博士」という樹木の名前を覚える森林教育イベントを，平成17年８月には一般市民向けに企画して開催した。鳥取市の森林公園「とっとり出合いの森」を会場として提供していただき，新聞広告で参加者を公募した。市街地の親子２組５名の応募があり，当日は天候にも恵まれ，午前中２時間樹木の特徴と名前を説明しながら森林を散策した。（写真４）生徒は当日に備えて事前に２回下見し，お互いが参加者役をしながら，保護者等からも出される質問に対処する練習をした。ツバキの種やムクロジの笛など森林に親しむ方法を提供した。立て看板と名札の作成など企画運営を分担して行い，森林に親しむ楽しさと夏休みの思い出が提供できた。

終わりに

本校の学校林を中心とした活動は，第39回（平成16年度）全国野生生物保護実績発表大会で林野庁長官賞と，平成18年全日本学校関係緑化コンクールで学校林等活動の部高等学校準特選（国土緑化推進機構会長賞）という形で評価していただいた。もちろん，伝統的な林業地である智頭で林業が再興隆することも私たちの願いである。この点で私たちと共に次代を担う地元の小学生と林業体験をしたり，野鳥観察など野生生物の観察方法を学べたことは大きな喜びであった。これからも自然保護の観点を忘れることなく，学校林活動を続けていきたい。

様々な活動によって森林業へのアプローチを行っているが，森林は私たちが期待する以上の懐の深さを示し，感動を与えてくれている。森林が持つ本来の魅力に光を当て，もっと森林業を輝かせていきたいと思う。地元智頭町が持つ宝石の原石ともいえる森林がますます輝きを増していくために新たな森林・林業教育を実践していきたい。